

沿 革

昭和47年 3月11日創立

当時は、東京オリンピック開催で東洋の魔女といわれた女子バレーボールチームの金メダル獲得、そして岐阜国体開催などの影響もあり、スポーツへの関心が高まっていた。

また、生活にもゆとりが生じた頃でスポーツ活動が盛んになってきた。地域では小中学校のPTAや婦人会中心としたチームが多く誕生し、生活の中で気軽にバレーボールを楽しむ婦人が急増していた。

昭和46年12月 岐阜市民センターにおいて家庭婦人バレーボール交歓大会を開催、この大会を機にバレーボールを楽しんできた多くの皆さんの賛同をもとに連盟結成に向けて市橋美耶子(初代女性理事長・会長)・吉田登喜子・佐藤登美子を中心に歩き始める。昭和47年 1月 創立準備委員会を結成、自分たちの手で大会運営が出来るように「女性のスポーツは女性の手で」をキャッチフレーズに、運営の方法、組織作り、規約の事など、県協会の先生方の心強い指導のもと、昭和47年 3月11日、結成総会を開催、「バレーボールに関する活動を振興して、岐阜県における家庭婦人の健やかな体力の育成と明るい生活の形成を図ること」を目的に「岐阜県家庭婦人バレーボール連盟」が誕生した。スタートに際し加盟した数は26チーム。

経過

当初は、連盟や大会の運営には未知のことや真新しいことばかりであったが、県協会の全面的なバックアップにより、徐々に一步一步前進しスムーズな大会運営や、女性審判員の養成、各委員会活動の充実など現在のような幅広い活動が出来るよう成長し、昭和51年度から理事会等、実働の役員は全て女性となった。

昭和52年には初の女性公認審判員が21名誕生、その後の大会運営が、より充実した。

昭和56年に結成10周年を記念してチャリティーバザーを開催。収益金を中日新聞社と岐阜新聞社を通じて福祉施設へ寄付している。

昭和50年中頃からは県内で連盟が直接主催していた講習会、研修会の他に全国家庭婦人連盟の審判講習会、東海家庭婦人連盟の指導者講習会等が開催されるようになり、「コカ・コーラさわやかバレーボール教室」が持たれるなど連盟の行事は年毎に多様になってきた。平成3年度には結成20周年を迎えて、記念大会、記念誌「年輪 一球に心を寄せて」の発刊、連盟旗を作成した。また、雲仙・普賢岳の噴火災害への義援金を朝日新聞岐阜支社に寄託した。

平成4年度から機関誌「たまゆら」が発行されるようになった。

平成5年度、長い年月を連盟発展に尽くされた市橋美耶子理事長が副会長に、後任に石原信子理事長が就任した。

平成9年度からは、赤地鈴枝副理事長が理事長に就任、「三屋裕子の“いきいきバレーボール教室”」、平成10年度には、「全国スポーツレクリエーション祭」にふれあい応援団として県に協力、平成11年度は元全日本で活躍した選手による「HERTUときめき杯ママさんバレーボール岐阜大会」など積極的に誘致した。

平成13年度には、結成30周年を迎えて、「30周年 3月やよい大会」を開催。バザー等の収益金をユニセフに募金した。

平成19年度、発足時から35年にわたりご尽力いただいた武藤嘉文会長が名誉会長に、初の女性会長に市橋美耶子副会長、赤地鈴枝理事長が副会長に、山元美代子副理事長が理事長に就任した。

平成21年度、山元美代子理事長が副会長に、廣瀬眞弓事務局長が理事長に就任した。

平成23年度、4月1日から全国家庭婦人バレーボール連盟は、一般社団法人となり、名称も新たに「一般社団法人 全国ママさんバレーボール連盟」となった。県内では市橋美耶子会長は名誉会長となり、赤地鈴

枝副会長が会長に就任した。

平成24年度、前年度の全国連盟の名称変更に伴い岐阜県も、「岐阜県家庭婦人バレーボール連盟」から「岐阜県ママさんバレーボール連盟」と名称変更した。

平成28年度、岐阜県において初開催となる全国大会：第28回全国家庭婦人バレーボールいそじ大会を岐阜メモリアルセンターにおいて64チーム、757名の参加により開催した。

令和元年、バレーボールを通して親睦と交流を深めるとともに、ママさんバレー愛好者が増えることを目的に開催された「ま～みんフェスタVol. 2」を岐阜県において開催した。

令和 3年度、赤地会長が名誉会長に、廣瀬理事長が会長に、新川常任理事が理事長に就任した。

主な大会

岐 阜 県 大 会

①春季大会

連盟結成の昭和47年 4月から開催し、24チームが参加した。

現在は、岐阜県主催の“ぎふスポーツフェア”の一環として岐阜メモリアルセンター で愛ドームで 6地区の予選を勝ち抜いた A・B・Cの 3ランク、24 チームが参加。

令和 6年度は、で愛ドーム・ふれあいドームの 6コートにおいて36チームが参加。

②秋季大会

春季大会と同様、昭和47年から開催し、30チームが参加した。

現在は、6地区の予選を勝ち抜いた16チームが参加し、上位 チームを東海ママさんバレーボール大会 A組に推薦。

③コープぎふSmile CUP

令和 6年度より、「コカ・コーラ ボトラーズジャパンカップ」に変わり生活協同組合コープぎふの協賛により「コープぎふSmile CUP」として開催。

上位チームを東海ママさんバレーボール ウインターカップに推薦。

④全国ママさんバレーボール大会 岐阜県予選会

6地区の予選を勝ち抜いた16チームが参加し、上位チームを全国ママさんバレーボール大会に推薦。

令和元年より 上位次チームを東海ママさんバレーボール大会 B組に推薦。

⑤愛・チャンピオンズリーグ岐阜県予選会

平成23年度より、「全国冬季ママさんバレーボール大会岐阜県予選会」として、6地区の予選を勝ち抜いた16チームが参加し、上位チームを愛・チャンピオンズリーグに推薦。

令和 5年度より大会名称が「全国ママさんバレーボール冬季大会」より「愛・チャンピオンズリーグ」に変更。

令和 6年度より 上位次チームをGRACE CUP(一般の部)に推薦。

⑥全国いそじ大会岐阜県予選会

全国大会出場を希望するチームが参加し、上位チームを推薦。

参加資格は、当初 4月 1日に50歳に達している事が条件であったが、令和 6年度より55歳に引き上げられた。

⑦東海いそじ大会岐阜県予選会

東海大会出場を希望するチームが参加し、上位チームを推薦。

参加資格は、4月1日に50歳に達している事が条件。

令和6年度より上位チームから1チームをGRACE CUP(シニアの部 エメラルド)に推薦。

⑧いそじ親睦大会

平成12年度から、地区持ち回り事業として開催。

順位を競わず親睦を深めることを目的に、6地区のチームが参加し2試合を行う。

⑨全国ことぶき大会岐阜県予選会

令和2年度までは推薦で出場チームを決定していたが、ことぶき登録チームが増加したことにより、令和3年度より予選会を開催し上位チームを推薦。

参加資格は、当初4月1日に60歳に達している事が条件であったが、令和6年度より65歳に引き上げられた。

⑩東海ことぶき大会岐阜県予選会

東海大会出場を希望するチームが参加し、上位チームを東海大会へ推薦。

参加資格は、4月1日に60歳に達している事が条件。

令和6年度より上位チームから1チームをGRACE CUP(シニアの部 ルビー)に推薦。

⑪ことぶき大会

平成20年度から、親睦を深めることを目的に下呂市で開催。

6地区のチームが参加し2試合を行う。

⑫おふく大会

令和2年から、親睦を深めることを目的に開催。

おふく大会の参加資格は、当年4月1日に70歳に達している事が条件。

◇終了した大会

①知事杯争奪ママさんバレーボール大会

昭和50年度から開催されて、GBS岐阜テレビの放映があり、解説者に地域やチームの関係者が登場するなど人気の高い大会であった。平成6年度に第20回を数えて終了した。

②コカ・コーラ ボトラーズジャパンカップ

「コカ・コーラ さわやかバレーボール教室」を支援いただいていた中京コカ・コーラボトリング株式会社が、更に地域スポーツ振興への協賛事業として新たな大会の場を冠スポンサーとして協賛いただき、平成9年度から6地区の予選を勝ち抜いた16チームが参加し開催。

平成31年度から上位チームを12月開催の東海ウインターカップに推薦。

令和5年度に27回を数えて終了した。

東海大会(愛知県・岐阜県・三重県)

昭和49年度から愛知県・岐阜県・三重県・静岡県の 4県の代表チームで開催されていたが、令和 6年度より静岡県を除く 3県による開催となった。

①東海ママ大会

当初は、愛知県・岐阜県・三重県・静岡県各県 2チーム、計 8チームにより開催し岐阜県からは秋季大会の上位 2チームを推薦していたが、令和元年度より、各県の全国ママさんバレーボール大会予選会 2位・3位の 2チーム、計 8チームが B組として加わり全16チームとなった。

令和 6年度からは12チームにて開催。

②東海いそじ大会

平成 5年度 第 1回大会は静岡県で各県 2チーム、計 8チームの参加により開催。

その後、チーム数が増加し各県 4チーム、計16チームで開催していたが、令和 6年度より各県 5チーム、開催県プラス 1チームで開催。

③東海ことぶき大会

平成10年度 第 1回は岐阜県で「いそじ大会」と兼ねて開催した。

年々参加者の希望が増加し、多くのチームが参加できるよう平成12年度からは、ことぶき大会として独自開催。 参加チーム数は、東海ママさんバレーボール連盟役員会議で決定。

④東海おふく大会

平成29年度から、東海ことぶき大会において「おふくの部」を設け、第 1回は岐阜県にて各県 2チーム、合計 8チームにて開催。

令和 5年度より「東海おふく大会」として開催。

参加チーム数は、東海ママさんバレーボール連盟役員会議で決定。

⑤東海ウインターカップ

平成30年より第1回は三重県で開催され、各県 4チーム、計16チームで開催。

令和 6年度より各県 5チーム、開催県プラス 1チームで開催。

◇終了した大会

①コカ・コーライーストジャパンカップ 愛知・岐阜・三重 決勝大会

平成12年より開催されたが、経営判断により平成26年度の岐阜県大会で終了した。

全 国 大 会

①全国ママさんバレーボール大会

第 1回大会は昭和45年に東京で開催され、岐阜県の初回参加は「ひとつ葉」。

第 4回からは、全国大会は生涯に 1回だけと正式に決定されママさん選手にとっては、一生に一度という憧れの大会となった。「強豪選手に偏らず、より多くのママさん選手に全国大会にプレーしてもらいたい」そんな大会の精神が続きママさんにとって大きな目標の歴史ある大会。

第55回大会より、参加資格が緩和され登録会員であれば何度でも出場できることになった。

令和 4年度に岐阜県(岐阜メモリアルセンター)において開催し、36チームが参加した。

②愛・チャンピオンズリーグ

LAWSON CUPに代わる大会として平成23年度に「全国ママさんバレーボール冬季大会」として、第1回は福岡市で開催。

令和5年度に「愛・チャンピオンズリーグ」に名称変更し、参加資格も緩和され会員であれば出場できるようになった。

令和6年度に岐阜県(岐阜メモリアルセンター)において開催。

③全国いそじ大会

年齢層の厚くなったママさんバレーを生涯スポーツに導くため、全国ママさんバレーボール大会の年代別の大会として、平成の幕開けに第1回が開催。

平成28年度は、岐阜県(岐阜メモリアルセンター・山県市総合体育館)において開催し、全国から64チームが参加した。

令和6年度より、体力向上により参加資格年齢が50歳から55歳に変更になった。

④全国ことぶき大会

60歳以上が対象の“ママさんバレーのマスターズ版”大会の趣旨は「元気を確かめ合い、明日の力になるよう親睦をはかる」ことを目的に、第1回大会を平成8年に東京都で100チームが参加して開催。

ことぶきは還暦古希などの祝いにはすべて寿がつくことから「ことぶき」の名称となった。

また、70歳以上の「おふくの部」も設けられており、福寿から「おふく」の名称となった。

令和6年度より、体力向上により参加資格年齢が60歳から65歳に変更になった。

⑤全国おふく大会

第20回全国ことぶき大会を記念し、平成28年度より全国おふく大会を単独で開催し、第1回大会は奈良県で24チームが参加し開催した。

⑥ま〜みんフェスタ

平成30年度から、「バレーボールを通して、親睦と交流を深めると共に、ママさんバレー愛好者を増やす」ことを目的とし、全国ママさんバレーボール連盟登録以外の方、男性、家族等老若男女問わず参加できる新しいスタイルの大会がスタートした。

第1回は、福島県会津若松市猪苗代町、第2回(令和元年)は、岐阜県下呂市において開催された。

⑦GRACE CUP

令和6年度より、新たな大会「GRACE CUP」一般の部とシニアの部(50歳以上:エメラルド、60歳以上:ルビー)が加わり、第1回大会は、三重県で開催された。

◇終了した大会

①LAWSON CUP

(株)ローソンが創立30周年を迎え、全国のママさんが楽しんで参加できる全国大会をと特別協賛、第1回大会は平成18年に宮城県で開催された。一生に一度しか出られない全国ママさん大会に出場したものの、いそじ大会に参加するには早い年齢の選手のために新たな目標の大会となった。

平成22年度3月に開催予定の全国大会は、東日本大震災に配慮して中止となり第6回大会にて終了した。